

新田紀敏^{a,*}, 佐藤 謙^b: イヌカモジグサ (イネ科) 北海道に産す

^a北海道立総合研究機構森林研究本部林業試験場

^b北海道大学総合博物館資料部

Noritoshi NITTA^{a,*} and Ken SATO^b: A New Record of *Elymus gmelinii* var. *tenuisetus* (*Poaceae*) for Hokkaido, Japan

^aForestry Research Institute, Forest Research Department, Hokkaido Research Organization, Koshunaicho-Higashiyama, Bibai, Hokkaido, 079-0166 JAPAN;

^bMaterial Section, The Hokkaido University Museum, N10 W8, Kita-ku, Sapporo, Hokkaido, 060-0810 JAPAN

*Corresponding author: nitta-noritoshi@hro.or.jp

(Accepted on November 29, 2019)

Summary: *Elymus gmelinii* (Ledeb.) Tzvelev var. *tenuisetus* (Ohwi) Osada (*Poaceae*) is newly recorded from Ashibetsu-shi, Sorachi Subpref., central Hokkaido, Japan. This plant was found to grow in a wet understory of deciduous broad-leaved forest.

イヌカモジグサは、シベリア東部・中国東北部・モンゴルなどに分布する母種 *Agropyron turczaninowii* Drobow と比較して、全体に小形で小穂がより小さく、芒が細い点で区別される変種 var. *tenuisetum* Ohwi として記載された (大井 1941)。その後、母種がシベリア・中国東北部に分布する別種 *Agropyron gmelinii* (Ledeb.) Scribn. & J. G. Sm. と同種とされたため、その変種 var. *tenuisetum* (Ohwi) Ohwi とされ (Ohwi 1953)、さらに別属 *Elymus* への移動と新組み合わせが行われ *Elymus gmelinii* (Ledeb.) Tzvelev var. *tenuisetus* (Ohwi) Osada に落ち着いた (長田 1990)。本変種の分布は本州中部、朝鮮半島、南千島とされ (大井 1941)、国内では長野県霧ヶ峰周辺の高地草原のみに隔離分布することが知られていた (長田 1993, 茨木ら 2016)。

筆者らの一人新田は、北海道本島未報告のイネ科植物を空知地方の芦別市、峠山に近い惣芦別川沿いで採集した。その標本 (Fig. 1) は、芒が長さ 3 cm を越えて乾燥時に強く反り返る特徴などから *Elymus* 属植物と考えられたので、長田 (1993) に準拠して、同属の中で最も近縁と考えたイヌ

カモジグサ *E. gmelinii* およびタカネエゾムギ *E. yubaridakensis* (Honda) Ohwi と外部形態 21 形質と生育環境を比較検討した (Table 1)。

その結果、この植物の 19 形質がイヌカモジグサの特徴と一致した。残る 2 形質については、長田 (1993) が記述したイヌカモジグサの特徴とわずかに異なっていた。まず、包穎の脈数は長田 (1993) では 6–9 脈と記されているが、この植物では 5 脈であった。京都大学総合博物館 (KYO) でタイプを含む標本を確認した結果、5 脈と数えられる標本も含まれていたため、5–9 脈とする大井 (1953) や茨木ら (2016) の見解が支持された。次に内穎の竜骨上小刺針列は、長田 (1993) では下から 1/3 以上の部分と記されているが、この植物では竜骨上の上部 1/2 に認められた。しかしながら、この小刺針は列の下部では短くなり、間隔も広くなるため確認しにくくなり、KYO で確認した標本でも上部 1/2 に列生すると見えるものもあったので、上記の差は種の変異内にあるものと考えられた。以上の形態的特徴の検討の結果、この北海道産の植物の標本をイヌカモジグサと同定した。

北海道におけるイヌカモジグサの採集地は、山地帯 (標高 790 m) の落葉広葉樹林の林床であるが、沢沿いの湿潤な環境であった。長野県における産地は高地草原と記されているが、KYO で標本ラベルを確認した結果、その採集地は霧ヶ峰、踊場湿原、八ヶ岳黒百合平と記されており、湿潤な環境であることが推測された。したがって本州と北海道におけるイヌカモジグサの生育環境は、大

教授，北海道大学総合博物館 (SAPS) での標本閲覧には高橋英樹博士に便宜を図っていただいた。北海道立総合研究機構林業試験場の成田あゆ氏には KYO 閲覧の契機を与えていただいた。現地調査にあたっては北海道森林管理局空知森林管理署の方々にお世話になった。ここに記して感謝する。

摘要

イヌカモジグサ *Elymus gmelinii* (Ledeb.) Tzvelev var. *tenuisetus* (Ohwi) Osada (イネ科) の北海道本島新産を報告した。本種の北海道芦別市の産地では、やや湿潤な広葉樹林下に生育していた。

References 引用文献

- Ibaragi Y., Koba H., Sato H. and Yonekura K. 2016. *Poaceae (Gramineae)*. In: Ohashi H., Kadota Y., Murata J., Yonekura K. and Kihara H. (eds.), *Wild Flowers of Japan, Revised and Enlarged Edition*. **2**: 23–99. Heibonsha, Tokyo (in Japanese). 茨木 靖, 木場英久, 佐藤広行, 米倉浩司 2016. イネ科. 大橋広好, 門田裕一, 邑田 仁, 米倉浩司, 木原 浩 (編). 改訂新版日本の野生植物 **2**: 23–99. 平凡社, 東京.
- Ohwi J. 1941. *Gramina Japonica* 1. *Acta Phytotax. Geobot.* **10**(2): 94–135 (in Japanese). 大井次三郎 1941. 日本の禾本科植物第一. 植物分類・地理 **10**(2): 94–135.
- Ohwi J. 1953. *Flora of Japan*. Shibundo, Tokyo (in Japanese). 大井次三郎 1953. 日本植物誌. 至文堂, 東京.
- Osada T. 1990. New names proposed in my “*Illustrated Grasses of Japan*” (1989). *J. Jap. Bot.* **65**(9): 266 (in Japanese). 長田武正 1990. 「日本イネ科植物図譜」に用いた新学名. *J. Jap. Bot.* **65**(9): 266.
- Osada T. 1993. *Illustrated Grasses of Japan, Enlarged Edition*. Heibonsha, Tokyo (in Japanese). 長田武正 1993. 増補日本イネ科植物図譜. 平凡社, 東京.